

令和6年度 第1回さいたま市立視聴覚ライブラリー運営委員会会議録

開催日時 令和7年2月13日(木) 午前10時00分 ～ 11時15分
開催場所 北図書館 イベントルーム
出席者 三島浩委員長、高橋優子副委員長、林弘樹委員、三ツ口拓也委員、森山日登美委員
欠席者 なし
事務局 玉木北図書館長兼視聴覚ライブラリー館長
(事務担当) 岡田館長補佐、尾崎参与、田部係長、山崎主査

公開・非公開の別 公開
非公開の理由 —
傍聴人の数 0人

- 1 開会
- 2 北図書館長挨拶
- 3 議 事
 - (1) 視聴覚ライブラリー事業報告について
 - (2) 教材(16ミリフィルム及びビデオテープ)の保存及び利活用について
- 4 その他
- 5 北図書館長挨拶
- 6 閉会

●議事(1) 視聴覚ライブラリー事業報告について

令和5年度の視聴覚ライブラリー事業実施状況について、令和6年度さいたま市図書館要覧に基づき事務局より説明した。また、令和6年度の事業実施状況について機材・教材の利用状況、16ミリフィルム映写機操作技術講習会の実施状況を報告した。

その他の視聴覚ライブラリー事業報告として、令和6年度の実施状況について、北図書館ショートフィルム制作プロジェクト2024、小学校の生活科学習公共施設見学での16ミリ機材・教材活用事例、公民館との連携事業を事務局より説明した。

林委員

16ミリフィルム映写機操作技術講習会は良い事業であると思っている。一般の利用者が講習を受講することで、視聴覚ライブラリーの利用促進につながる。また、子ども向けに講習会を実施することも良いと思う。子どもたちは映像を撮影したり編集したりということに興味があるので、アナログ的な手法で映像を投影する方法を知ることが新鮮に感じると思う。

●議事(2) 教材(16ミリフィルム及びビデオテープ)の保存及び利活用について

令和5年度さいたま市立視聴覚ライブラリー運営委員会で16ミリフィルム(地域映像資料)の保存及び利活用について事務局より提案し、各委員から様々な意見があった。

今期委員会活動の成果として、16ミリフィルム及びビデオテープの保存と活用を考える論点まとめ(案)を事務局が提示し、各委員から意見を求めた。

その結果、次の点について視聴覚ライブラリー運営委員会委員の意見が一致した。

1. 論点まとめには、視聴覚ライブラリーの教材（16ミリフィルム及びビデオテープ）を活用していくことが目的として明示されるべきである。
2. 活用するためにはフィルムや磁気テープが、劣化等の状況により失われるまえにデジタル化する必要がある。
3. デジタル化には多額の費用が必要となるため、視聴覚ライブラリーの枠組みで実行することは実現性に乏しい。市全体のアーカイブ事業の一つとして役割分担していくべきである。

林委員

視聴覚ライブラリーの貴重な財産をどのように残し、活用していくか考えていくことが、今後の視聴覚ライブラリー運営委員会の大事なポイントになる。

どのように残し、利用するのかロードマップを作り、利用方針を定めて進めることが何より大切である。そのうえで、市民に分かりやすく説明し、利用を促進する取組を実施していくことが求められる。

また、デジタル化したときの権利の問題に関して、館内利用の場合、上映利用の場合で違いがあることを利用に際して明確に伝わるように整理する必要がある。

フィルムの制作に市が関与している映像資料については、頒布権を市が保有していることも十分考えられるので、そのあたりの再確認も必要である。

森山委員

この保存と利活用の問題は市全体の課題である。16ミリフィルム映写機の操作技術講習会で資格を取得する人がまだまだいる。今後、市の子どもたちにも16ミリ映写機の操作技術講習会で資格を取得できるようにしたり、教育へ利活用したりすることも考えられる。

16ミリフィルムやビデオテープをデジタル化して保存し活用していくことについては、基本的な計画を策定して、事業計画案を具体的に教育委員会内で示し、事業の重要性を理解してもらうことが必要である。

また、視聴覚ライブラリー運営委員会として提言書をまとめ、それに基づき事業計画を立案するという手順があってもいいのではないか。

林委員

地域資料を活かしていくことは地域振興にとっても大事なところである。地域づくりの観点から映像資料のデジタル化を考えていけるとよい。活用に力を入れている自治体も多い。地域資料を収集し、記録を残し、運用していくところに図書館の価値があるということを市として見直し、デジタルタウン事業などとセットで考えていかないと進展は望めない。

森山委員

図書館のよいところは資料を貸出していて市民が利用できることである。また、図書館が講座を主催することで、所蔵する知的財産を市民に還元することができる。

林委員

デジタル化にあたっては画質の問題もある。4Kや8Kが主体となったとき、ビデオテープの画質はハイビジョンより劣る画質で、大きなテレビで再生したときに映像が荒くなってしまう。変換するレベルがその程度でよいのかという課題がある。

高橋副委員長

まずは優先順位を考えて毎年2本、3本のデジタル化を進めてみてはどうか。

地域の映像資料は、郷土史を調べたい人にとって利用価値がある。年に数回でも各地域の図書館が地域映像資料を使用した講演会を企画し、博物館などと連携して開催することで、古い映像資料の保存を考える気運醸成を図ることができる。講座参加者の人数なども実績となる。

三ツ口委員

この論点まとめ(案)は保存に重点が置かれていて、活用することは手段の一つとなっている。今後のデジタル化を考えるにあたっては、活用していくことを目的とすべきで、目的は何か、何のために実施するのかを明確にする必要がある。例えば、未来の子どもたちのために、市の歴史に根を下ろして成長していくためにアーカイブすべき資料があり、保存していかなければならないというように構成を作り直したほうがよい。

林委員

地域振興のために、あるいは、人材育成のためにという観点とデジタル化との組み合わせについて、所管する部署と掛け合い繋がることができれば、地域映像資料のデジタル化の流れを進めていけるものとする。視聴覚ライブラリーも保存の役割を担える。さらには、デジタル化にあたってDVDで持つのか、データで持つのかに関しては、利用に基づいて考えることとなる。

三島委員長

VHSからDVDあるいはデータへ単純に移行しても、昔のブラウン管テレビで見ていた映像データとなる。ただ、AIの活用で技術的な課題は今後よくなっていくと思われる。デジタル化が喫緊の課題であるなら、この保存と利活用の課題について進めた方がよい。技術的な問題はそれと並行しながら解決していけるものとする。

三ツ口委員

デジタル化への移行を進めた方がよい。ただし、DVDへ変換したとしても劣化の問題は残る。

林委員

デジタル化から活用までのモデルケースを示して、図書館あるいは公民館で実施してみるとよい。

高橋副委員長

公民館と連携し地域映像資料を活用した講座の企画を実施することも考えられる。

●閉会